

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、クレド(職員の行動指針)を掲げ、法人の理念及び年度ごとの経営方針に基づいて施設の事業計画を立てている。また、施設の理念も掲げている。	法人理念、職員の行動指針が今年度見直され、新たな気持ちで日々の支援に取り組んでいる。4月には新しい法人理念、行動指針についての研修会を行い徹底を図ると共に各ユニットに掲示し毎朝唱和し、共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	昨年10月に地域のお祭りが開催され、利用者様と見に行くことができたが、コロナ禍により地域行事が殆ど無く、お便りを年3回発行しグループホーム内の様子を地域に発信した程度で留まり、職員又は施設から情報を発信する機会が少なかった。	開設以来区費を納め回覧板も回していただき参加出来る行事には参加し地域の一員として活動している。新型コロナ禍が続き殆どの地域行事が取りやめとなっていたが、引き続き年3回、ホーム便り「まめだ便り」を発行し地域の人々にお届けし関係継続への働きかけを行っている。そうした中、昨年秋より地域のお祭りが再開され利用者も見学に出掛け楽しいひと時を過ごしている。また新型コロナ感染対策の緩和を受け、4月より地域の「下町サロン」も再開されており元気な利用者が参加している。合わせて「傾聴ボランティア」等についても人数を制限しての再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、前年度は情報を発信する機会が持てなかった。今年度は利用者様と地域サロンに出向き、つながりや認知症における様々な相談を受け助言等を行う計画を立てている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。施設での取り組み等の報告を行い、参加者様から意見や助言を頂いている。会議の際に出た意見は、職員にも伝え運営に役立っている。	新型コロナ禍が続き書面での運営推進会議が続いていたが、本年2月より参集しての運営推進会議が再開された。2ヶ月に1回偶数月に区長、第三者委員、町福祉課職員、木曾広域連合職員、消防北分署署員、ホーム関係者が出席している。利用状況や職員状況、事故報告などを議題に意見交換等が行われサービスの向上に繋げている。また年2回は木曾地区にある同じ法人運営の3施設合同での運営連絡協議会が開催され、地区全体の介護サービスの質の向上にも取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的の木曾広域連合や木曾町地域包括センターへ各種相談を行い、必要な助言指導、アドバイスを頂くなど連携に努めている。また運営推進会議のほか、グレイスフル木曾・上松・日義で共同開催する運営連絡協議会の場でも情報共有を行っている。	木曾地域地域包括支援センター、広域連合ときめ細かな連携を取り運営の向上に繋げている。また、広域連合が行う研修会には積極的に参加している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応して行っている。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の思いを理解し、身体拘束は行っていない。2ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催している。身体拘束等の適正化の指針を掲示し、施設内研修にて身体拘束廃止に関する研修を行っている。また、運営推進会議の場でも報告を行っている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。殆どの利用者は室内での歩行が可能で、居室内のセンサー類の使用は「ゼロ」の状況である。そうした中、1～2時間おきに細かめな所在確認を行い安全に繋げている。玄関は安全確保のため施錠しているが外出傾向の強い利用者については毎日のゴミ出しのお手伝いや食材の買い出しにお連れし納得していただいている。定期的に行われる法人主催の身体拘束研修会と合わせ2ヶ月に1回行う身体拘束適正化委員会で意識を高め、拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時及び年2回以上の虐待予防のための研修を実施している。職員間でも不適切な対応や言葉かけがないか常に確認し合い、虐待が見逃ごされることがないように防止に努めている。また原因の有無を問わず外傷等を発見した場合は速やかにご家族へ報告を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修または行政の事業所連絡会における勉強会に参加し学ぶ機会を持っている。現在制度を活用することが必要な利用者様はいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、重要事項説明書・契約書にて説明を行っている。また、解約については利用者様・ご家族と綿密な話し合いの場を設け決定している。退居先も懇切丁寧な対応を行っている。料金改定は書面で説明、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上半期6月と下半期12月の年2回、ご家族宛にアンケートを配布・回収し意見、要望についてスタッフ会議で改善に向けた議論を行う。その返答内容を掲示、送付し事業計画や運営に反映している。	新型コロナ禍が長く続き家族の面会については窓越しや土・日曜日に併設デイサービスの玄関先で行っていたが、5月8日以降の感染対策緩和を受け、アポなしでも午後1時～5時までの間、来訪者2名、15分を限度に居室での面会を再開した。また、毎月の誕生会や年間行事計画に沿い、「ほうば巻き作り」などの行事を行い季節感を味わっていただけるようにしている。そうした中、ホームでの生活の様子を毎月発行されるお便り「グレイスフル日義」で家族に知らせ、利用者一人ひとりの様子については担当職員より生活の様子を写した写真と共に手書きのお手紙を添え家族より好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、職員との定期面談、職員満足度アンケート、事業計画についての意見書を配布し全職員の意見や提案を聞く機会を設け、積極的に運営へ反映させている。	必要に応じスタッフ会議を行い、業務の見直し、職員研修の報告、利用者一人ひとりのケア等について話し合い、業務の質の向上に繋げている。年1回、職員満足度アンケートを実施し、職場環境の整備、人間関係、働き易い環境作りなどに取り組んでいる。合わせて年1回、職員対象にストレスチェックが行われメンタル面にも気配りがされている。人事考課制度があり年度初めにスーパーシートを用い目標設定を行い、施設長、ハウスマネージャーによる個人面談を行い職員一人ひとりのスキルアップに繋げている。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自のキャリアアップ制度に基づき、チャレンジシート、スーパースターシートを使用し職員ひとりひとりが自分自身の目標を持ち、レベルアップしていける環境を整えている。また、有給取得率向上に向けた取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チャレンジシート、スーパースターシート、研修参加一覧表等に基づき、各職員がチャレンジする項目を明確にするようにしている。また、定期的に法人内外の研修、交換研修に参加し、資格取得のための支援体制も整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院連絡会や事業所連絡会に出席し、ワーキンググループにて他の事業所と相互の活動の様子を情報共有することをしており、それをサービスの質につなげるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込み時、契約前の事前面接において、ご家族だけではなく本人様にも必ず出席して頂いて、不安や要望をお聞きしている。面接した内容は、入居判定用紙、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の事前面接において、不安や要望等をお聞きしている。面接で聞き取った内容は、フェイスシート、相談記録に記録すると共に、暫定ケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っているかを必ず確認している。相談内容から他の介護保険施設の利用が適切と判断した場合は、他施設のサービスの概要も説明し、関係職種と連携・協同して対応出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の様子観察を十分に行い、利用者様の立場に立って、その想いを知るようにしている。利用者様が良い表情であったり、嬉しそうなお話があった時は、結びつきや共にあることを感じて頂けるよう職員と一緒に喜び合う関係作りが出来ている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月施設からの個人便りや面会時、必要時の電話連絡の際に利用者様のご様子をお伝えし、相談を行いながら、職員と一緒に利用者様を支援して頂いている。		

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で前年度は面会の条件付き制限と外出外泊は控えていたが、5月より段階的に規制を緩和し、人や場所との関係が途切れないよう支援していく。	家族以外の面会については現在も自粛中である。そうした中、手紙のやり取りや携帯電話で親戚等と連絡を取り合っている利用者もいる。理美容については1ヶ月に1回、馴染みとなった地域の美容師の来訪がありカットしていただいている。また行きつけの美容院に出掛けられる方もいる。更に毎日交代で地域の馴染みの商店に買い物に出掛け「おやつ」等、好きな物を買って求めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2つのユニット間の往来は自由にして頂いており、日常的にユニットの違う利用者様とも交流が出来ている。行事もユニット全体で行うことがあり、利用者間交流により満足度向上と人間関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も定期的な連絡を通じて本人様の状態を把握し、病院や次の施設と密に連携し、本人様・ご家族が不安なく次の支援、サービスを受けることができるよう一緒に考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のご希望や意向を確認しながら支援を行っている。認知症により言葉で意向を伝えることが難しい利用者様についてはその表情や仕草から気持ちを汲み取ったり、ご家族に協力して頂き検討を行っている。	殆どの利用者は口頭で自分の意思を伝えられる状況にあり、ホールで会話を楽しみながらにこやかに過ごしている。新型コロナ禍が続く食事中は「黙食」の状態が続くことが難しい日々が続いているが、職員は居室や入浴中に一人ひとりの利用者の思いを受け止め希望に沿えるようにしている。そうした中で気付いた事柄についてはパソコンの中の「つぶやき表」として纏め、出勤時に確認し業務に就くよう徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族から申込み時や面接時に聞き取りを行い、フェイスシートやプロフィール表、アセスメントにまとめ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報に基づいて暫定ケアプランにてサービスを提供後、職員間でカンファレンスを行い、施設で実際の本人様の生活における心身状況やできること・特に支援が必要なことなどを分析・評価し、本プランに反映するようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況、認知症状の変化の観察に努める他、カンファレンス時に利用者様との会話やご家族様との情報交換、その方のお部屋担当からの提案によるアセスメントに基づいてケアプランを作成している。	職員は2~3名の利用者を担当し居室管理、家族への手紙の作成、家族との連絡、モニタリング等を行っている。入居時に家族から聞いた情報や意向より暫定として1ヶ月間のプランを作成し様子を見て本プラン作成に繋げている。半年に1回モニタリングを行い家族の希望は電話で伺いカンファレンスで意見を出し合い計画作成担当者がケアプラン作成を行っている。基本的には6ヶ月に1回見直しを行っているが、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い一人ひとりにあった支援に取り組んでいる。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的なモニタリングやカンファレンスを設けるほか、利用者様の個人記録はケアカルテによる即時記録が基本となっており、PC内及び業務日誌、連絡ノートを活用して、タイムリーな情報共有やサービスの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎年度上半期と下半期の2回ご家族宛にアンケートを配布・回収し意見、要望について支援に反映させるほか、つづやきやカンファレンスでその時々生まれるニーズを可能な限り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で、前年度は施設内への地域の方の来所はできていないが、ボランティアの方による施設回りの環境整備や利用者様のご友人、お知り合いの方との電話やFAXを通して書道の交流を支援している。また、防災訓練では消防署と連携が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は本人様及びご家族の希望を優先している。ご家族が対応出来なく急を要す場合は、職員にて受診を支援している。往診では日常の様子・変化を的確に伝えられるよう、事前に他職員からの情報を集約し主治医に伝え、その結果も情報共有を行っている。	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在は協力医の月1回の往診対応の方が三分の一弱、協力医への1～2ヶ月に1回の受診対応の方が三分の二弱おり家族がお連れしている。また入居前からのかかりつけ医への受診対応の方が若干名いる。併設のデイサービスの看護師が週2回来訪し利用者の健康管理と医師との連携を取っている。更に年1回、協力医による定期健康診断を受け利用者の健康管理にも取り組んでいる。歯科については必要に応じ協力歯科への受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化について併設するデイサービスの看護職へ随時情報提供を行い、必要時は看護職より対応についての助言指導や受診の指示等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、安心して治療できるように、また、出来るだけ早期に退院出来るように入院先へ訪問または電話連絡し病院関係者及びご家族との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族・病院関係者・市町村担当等と綿密に話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、関連事業所の担当者と共にチームで重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいる。	重度化についての指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。食事や入浴をすることが難しい状況となり重度化に到った時には家族、医師、ホーム職員で話し合いの場を設け、利用者にとって何が最良かを共有しホームとして出来る支援に取り組み、医療機関や法人内の特別養護老人ホーム、施設への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、事故発生時対応マニュアル等のマニュアルを作成している。また、定期的に法人内での研修やスタッフ会議内において連絡方法や職員の動きの手順確認を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響もあり、前年度は事業所中心の定期的訓練を実施する程度に留まっている。建屋の緊急連絡体制、全職員の緊急連絡網を整えているが、担当者以外の職員が訓練に参加する機会や地域との訓練がなかった。利用者が昼夜を問わず避難できる方法の確立と地域ぐるみでの訓練・協力体制の構築が必要と感じる。	新型コロナ禍ではあるが年2回の防災訓練を行い危機意識の共有に努めている。3月には消防署員2名参加の下、火災を想定した夜間想定避難訓練を行い、各ユニット1名の職員で何が出来るのかを確認している。消火器を使つての消火訓練、避難訓練も行っている。合わせて通報訓練、緊急連絡網の確認の訓練も行っている。6月には併設のデイサービスと合同の火災を想定した避難訓練を行い、ユニット1の利用者を全員ユニット2へ移動しての避難誘導訓練を行い防災意識の向上に繋げている。備蓄として米、缶詰、水等3日分が用意されている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様を尊重した声かけが行えるように、定期的に基本介護チェック表、接遇・環境整備チェックリストを用いて言葉かけや対応について、常に自らを振り返るようにしている。	言葉遣いや接し方については接遇チェック表、介護チェック表を用い振り返りの機会を設け気持ち良く過ごしていただくよう心掛けている。「親しみ中にも礼儀あり」で周りが聞いて不快にならないよう気ばりもしている。呼び掛けは基本的に苗字に「さん」付けでお呼びしているが、入居時に希望を聞き「名前」でお呼びしている方もいる。また入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを徹底している。年1回プライバシー保護に関する研修会を行いプライバシーに対する意識を高め支援に当たっている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に選択してもらうことを前提に言葉かけをしている。本人様を尊重した声かけが行えるように、定期的に基本介護チェック表や接遇環境整備チェックリストを用いて振り返ることにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除・洗濯・食事作り・買い物等、その日の利用者様の気分や体調に合わせて、無理強いせず職員と協働して参加が行えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、一緒に着替えを準備し、その日の気分や季節、気温などに合わせた身だしなみの支援を行っている。整髪は本人様・ご家族の希望を確認して理美容の申込みを行っている。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから、調理、盛り付け、配膳、後片付けまで、利用者様と職員が協働して行っている。また、利用者様の嗜好品をお聞きしたり、つぶやきを買い物に反映している。	一部介助の方が若干名いるが、他の多くの利用者は自力で食事が出来る状況である。献立は法人の管理栄養士が立てた2週間分のを基本に毎日の食材の買い出しや地元の野菜等を使い職員がアレンジして調理している。元気な利用者が多く、下準備、調理、盛り付け、後片付けなど、力量に合わせ楽しみながら参加していただいている。また、年間行事計画に沿って「五平餅作り」「ほうば巻き作り」、正月には木曾の郷土料理「おおびら」等を作り、季節感を味わい楽しんでいる。更に誕生日には「ケーキ」でお祝いし、敬老会にはお寿司やマグロの解体ショーなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は把握できており、本人様の嗜好、食べやすい形態での提供、多種の飲料を用意するなど柔軟に対応している。月1回以上の体重測定、年1回の健康診断にて健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お声をおかけし、本人様の出来ることは行っていただいている。ご本人で行うことが出来ない方は職員がブラッシング介助を行っている。また、必要時は訪問歯科と連携を図り、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の方がトイレで排泄を行っている。紙パンツから布パンツへ移行可能な方の洗い出しを行い、生活の質の向上と経済的負担の軽減に努めている。個別ケアに反映させ実践できている。	殆どの方が一部介助という状況となっている。布パンツ使用の方が数名で、他の方はリハビリパンツとパット使用という状況で、全利用者がトイレで排泄するが、一人ひとりに合わせ支援している。排泄表も参考に起床時、おやつ前、食事前、就寝前等の定時の声掛けを行い、気持ち良く過ごしていただようになっている。排便については3日間ない場合はコントロールを行い、「味噌汁」「お茶」「牛乳」「ジュース」「コーヒー」等、1日1,500cc～2,000ccの水分摂取に取り組み排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と献立に野菜、繊維質や乳製品を多く取り入れている。また、一日の中で体を動かす時間を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の提供時間はおおそ決まっているが、その中で希望する時間帯があれば職員の都合に合わせて、その曜日、時間に入浴して頂いている。また、リラックスできるよう音楽を流す趣向を凝らしている。	見守りを受け自立している方が数名、一部介助の方が五分の四強となっている。基本的には週2～3回の入浴を行っている。入浴拒否の利用者が数名いるが、誘い方に工夫をし入浴をいただいている。また、入浴剤を使用し、季節に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」等で季節感も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の睡眠・休息状態をアセスメント・評価しており、その内容に基づいて、休息場所や巡視の回数、空調管理などゆっくり休める支援方法を考えている。また、良質な睡眠を確保できるような材料を活用している。		

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が確実にできるよう服薬管理表と服薬手順チェック表を使用し、誤薬等がないよう支援している。いつでも薬の内容が確認できるよう、内服薬管理表の作成やお薬手帳、個々のカルテにも最新の薬剤情報を準備している。服薬後の利用者様の状態を観察して変化等あれば医療関係者へ相談、必要な指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望により、買い物や散歩、ドライブを行っている。毎月、年間行事計画に基づき、担当者が季節毎の行事、誕生会を企画している。飲食を伴う外出は法人内のルールにより実施していない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により前年度は職員のみでの対応であったが、短時間のドライブや施設周辺の散歩などはご希望があればできるだけ随時対応している。	外出時に自力歩行の方が三分の一弱、手引き歩行の方が数名、車いす使用の方が半数という状況である。毎日の日課として交代でホームのゴミ出しや近くの商店に食材の買い出しに出掛けている。また、天気の良い日にはホームの周りを散歩したりベランダに出て外気浴を楽しんでいる。合わせて協力医への受診の際には自宅の様子を見て来る利用者もいる。新型コロナウイルス禍が続き外出の自粛状態が続いてきたが季節に合わせて近くの「お寺」や「道の駅」までお花見を兼ねドライブに出掛けている。感染対策の緩和を受けコロナ以前のような生活に戻れることを待ち望んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、最小限にして頂き、原則自己管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を得ている方は、本人様の希望時に電話をかけている。個人の携帯電話を持ち込まれ、連絡を取り合っている方もいる。手紙についてもご希望があればお預かりし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち、危険箇所、修繕が必要な箇所がないか確認し、切れた照明等はすぐ交換するようにしている。室温等にも留意し、利用者様ができるだけ快適な環境で生活して頂けるよう努めている	陽あたりの良いホールは十分な広さが確保され開放感が漂い、オープンキッチンからは全体が見渡せるように造られている。外には木製のベランダが設置され外気浴を楽しむスペースが設けられている。壁には利用者の「ぬり絵」作品等が飾られ、日々の生活の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル、椅子、ソファ、ひざ掛け、テレビを置いて、お好きな場所で寛ぎの時間、他者と交流できる空間を整えている。		

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面接時や入居契約時、カンファレンスの際に、ご自宅で使い慣れた家具や馴染みのある生活用品を準備していただくことをお願いしており、利用者様の生活習慣や好みに合わせた設えを整えている。	居室は十分な広さが確保され掃除が行き届いている。洗面台と天袋の物入れが設けられておりユニット2の居室にはトイレも設けられておりプライバシーに配慮した造りとなっている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、ハンガーラック、衣装ケース、テレビ等が持ち込まれ、また自分の趣味の物、家族の写真、職員から送られた誕生日や敬老会のお祝い色紙に囲まれ、穏やかに過ごせるように配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に物を置かない。ユニット間は自由に往来することができ、ユニットをまたいで交流したり、活動できるようになっている。廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々の様子を観察し、ひやりハット報告事例から改善が必要と思われる箇所の改善、工夫を行っている。		